

西伊豆健育会病院

田中 智子(検査科 臨床検査技師)、鈴木 実希子(臨床検査技師)

功 績 検査科の田中と鈴木は、病欠のため4人体制から2人体制となったピンチを、これまでの経験と努力で凌ぎ、「救急拒否ゼロ」の病院理念実現に寄与している功績

推 薦 者 仲田 和正

推 薦 理 由 救急患者を全て受け入れるためには、医師、看護師だけでなくコメディカルの協力が絶大である。今回、検査科はリーダーの緊急入院により2名体制で行うことになった。「救急は決して断らない」との使命感を持って、業務に励んでいる田中と鈴木を、他の職員の模範といたしたく理事長賞に推薦いたします。

内 容

当院の検査科は4名体制であるが、H30年3月より病欠で1名減となり3名体制となった。3名体制に落ち着いてきた4月15日、検査科のリーダーが受傷して入院となった。完治には2ヵ月を要し、リーダーが復帰してくるまで2人体制という非常事態となった。

田中と鈴木の2名はパート職員であるが、田中はH6年11月に土肥クリニックに入職し、H19年4月に当院に移動となった、24年目の熟練された臨床検査技師である。鈴木もH13年に入職した17年目のベテラン臨床検査技師で、パート職員といっても2人の仕事ぶりは常勤と変わらない。

当院は「救急を断らない」ことを基本方針としており、コメディカルは24時間、オンコール体制を取っている。勤務時間外であっても、緊急呼び出しに瞬時に応じてくれるので、我々医師達は安心して診療ができる。救急対応時、鑑別診断を下すためには、採血検査の結果が重要となる。田中と鈴木2人で、通常業務をこなしながら、24時間のオンコール体制に対応できるのか不安が過ぎた。田中は水曜午後、土肥クリニックにも出向いている。

私は田中と鈴木に「リーダーが復帰するまでの間、2人体制だけど大丈夫ですか?」と確認した。2人は「大丈夫です。頑張ります。」と笑顔で応えてくれた。西伊豆健育会病院マインド「救急患者は全て受け入れる」との覚悟が感じられ、正直ホッとしたり、嬉しかった。彼らに「2人体制では、業務時間以外の対応は無理です。」と言われたら、夜間、休日の救急受け入れが困難になるからだ。

現在、田中と鈴木は愚痴一つ言わず、当院の検査科を守ってくれている。日曜および休日は、交替で待機当番が回ってくるので自由な時間も余りない。それでも、地域の患者さんのためと、人員が足りないことを決して口に出さず、黙々と検査業務に励む2人に頭が下がる。今日も彼らのお陰で診療ができています。